## 菊岡保人の水彩画

## ―細部に思いを にめて ―

## 「公園の桜」

国の至る所に桜の名所や有名な桜の木々がありますが、この絵 広々とした空間に伸び伸びと枝を広げ、花を青空に浮かばせる姿に の桜は東京都立砧公園へ数年前の4月上旬に訪れた時のものです。 名もない山桜ですが、その高さには圧倒されるものがありました。 人々は魅了されるようです。

になりますが、塊をただ漠然と描くと"桜"にはなってくれません。 塊の中の個の花を意識して表現しないと、今の私の技量では、満開 その原因は無数の花が個々を主張しながら、かつ群れとしての主 張もあるモチーフにあるように思います。花一輪を描いても"桜" の桜を表現出来ないようです。もちろん一つ一つの花を描いて塊を 表現するなど到底出来ません。描く部分の個の花を意識しながら描 桜の絵を何枚か描いてきましたが、思うように表現できません。 いています。

この絵を描いた手順を説明します。下絵で一番時間を要したのは

描き込みます。この緑の存在が花の色を左右すると考えたからです。 いよいよ花に取り掛かります。花咲か爺さんの心境です。明るい所、 桜の幹と枝でした。桜の木の個性を表すものであり、かつ絵の構図 着色は桜の背景になる空や遠方のやや暗い林、太陽の降り注ぐ広 場の順に行います。続いて枝に着く無数の葉を絵の具飛ばしで表現 し、幹と枝を黒っぽく書き込みます。これで桜の花を咲かせる舞台 は出来上がりますが、もう一つの重要な絵の要素・前面の緑を先に の基本になると考えたからです。もちろん花の群れも大事ですが、 影の所、塊の大きな、散らばらせ方……本当に楽しい一時でした。 枝が決まれば自ずと花は咲かせられると考えました。

皆さんの所にもきっと立派な桜があることでしょう。どんな風に 皆さんは楽しまれるのだろうかと、この絵を描きながら考えていま



菊岡 保人





